

交流を楽しんだ海（風の子、かもめ）

自然の中でなかまと育つ

7月20日～21日、かもめ保育園の年長児（17名）が風の子保育園（10名）と海辺で交流しました。「あと6回寝たら風の子来る！」とワクワクしていました。

会って間もなく、風の子とかもめの子が海に浮かせたボード（建設資材のスタイロフォーム）に一緒に乗ったり、つかまってバタ足をして泳いだり、かもめの子がタモで獲った“イソスジエビ”を「エビ食べる？」と勧めたりしていました。

風の子の熱い要望があり“かもめ対風の子”のリレー競争をすることになりました。3回対決したのですが、結果はかもめの完勝。風の子は悔しかったようで、その日、合宿場所に戻ってから近くの公園に行き、みんなで「かもめに勝とう！」と走り込みをしたそうです。2日目、風の子から「また、リレーしたい！」と挑戦を受けて、

リレーをすると、前日とは違う雰囲気の子たち。友だちの応援にも熱が入ります。そして風の子が1勝！「帰ってから公園に行って、たくさん走ったからだっ！」と嬉しそうな中、かもめ側では悔しがって涙を流す子や、「走る順番替えてみよう！」と勝利に向けて、話し合っている姿が見られました。

自分たちの思いを素直に表現したり、次なる高みにどう向き合うか策を練ったり、お互いに良い刺激になったようです。

2日間交流したことで、友だちになった風の子に手紙を渡す子や「また会おうね」と言う子がいたり、次の交流が楽しみようです。



＜かもめの水泳帽の子は風の子＞



＜スタイロフォーム＞

かもめ保育園

大満足の牧場合宿（7月5～6日）

～牛の乳搾りと「直飲み」体験！～

小樽市から毛無峠を越えて進み、余市郡赤井川村へ（園舎のある小樽市張碓町から50km・1時間ぐらい）。2回目の合宿先である、山の緑に囲まれ140頭の牛がいる山口牧場に着きました。ここは、年長児M君の祖父母・叔父さんの牧場です。今回の合宿は、すべてが初体験。子どもたちにはいく先も、ましてや搾乳体験の予定など秘密にしていました。

みんなをにこやかに出迎えてくれたのは、M君の叔父のたくちゃん。（牛よりインパクト？があり、即、子どもたちの人気者に）

朝の搾乳の時間にみんなも乳搾り体験が出来るということが明らかされ、早速たくちゃんからの牛クイズ&乳搾りレクチャーが始まりました。

Q. 牛の乳はいくつあるか？ Q. 胃袋の数は？ Q. 前歯は上と下どちらにあるか？

みなさんは、おわかりになりますか？

牛乳を搾る時は、親指と人差し指でギュッとしめてから中指、薬指の順に指を閉じていくことを教えてもらいました。



＜牛との戯れ＞



<牛乳を直のみ！>

び散ってきた牛乳でTシャツまでベチャベチャになりながら、満面の笑みでした。乳搾りの後、山口牧場の搾りたて牛乳を飲ませてもらいました。「甘～い！」「美味しい」「もう1回おかわり」などの声上がるような、味わったことのない美味しい牛乳。

～バターを作って、食べる～

M君の母「バター知ってるよね？この牛乳がバターになるんだよ！まずはペットボトルを握って、たくさんジャブジャブします。」

一斉にジャブジャブ、子どもたちは声を出さず一生懸命に振り続け、15分ほど振った後「次はそれを左右に振ってみるか！じゃっぽーん、じゃっぽーんってやるんだよ。」

小さい粒状の物が固まり合って“バター”が出来ます。暑い中振り続けること1時間。固形物と水分に分け、固形物に塩を入れて練ると出来上がり。出来立てほやほやのバターをクラッカーに付けて食べる。「美味しい。おかわりちょーだい。」と、おかわりする子が続出でした。そのバターは、朝の朝食のパンにも付けて食べました。濃厚でまろやか、市販で売っているバターとは全く違う！冷やして食べても美味しく、残らず食べ切りました。

たくちゃんの感想（スキーのインストラクター）

子どもたちの真剣さと体力にびっくり！

かもめっ子をこんな間近で見るのは今回が初めて。「あれ…小学校の子どもたちを受け入れたんだっけ？」と勘違いするほど、子どもたちの行動すべてが想像以上にしっかりしていて、目を疑うばかり。みんなの目が力強く、どんな時も一生懸命で全力で色々な事を吸収している姿に感動しました。

牛舎に入る前に、乳搾りの練習をしている時に、みんなが真剣に見て覚える、人の話を聞いて覚える、という単純な、しかし、大事なことがしっかり出来ていて、とても感心しました。大人でも出来る人がなかなかいないので。

そして何が一番驚いたかって、子どもたちの身体！だいたい必ずクラスには、1人ぐらい肥満児がいるはずが、かもめっ子は違う！むしろバキバキの筋肉。シックスパックに割れている腹筋に逞しい背中の筋肉。カモシカのようなハリのある太ももに力をグッと堪えられるふくらはぎ。しなやかな身体作りがしっかり出来ている子。

極めつけは、牧場の敷地を端から端まで歩くことなく全力疾走！走る走る！川遊びをしてから夜ご飯までの時間、止まることをせずひたすら動く園児。どこにそんな体力があるのか、本当にびっくりしました。



<乳搾り体験>



<山口牧場近くの川で川遊び>

菊水上町保育園



・カニ釣りはカニのハサミが怖くて中々つかめない子どもでしたが、その事がとても悔しくて子ども達自ら「もう一度カニ釣りに行きたい」と言って来るほどでした。自己主張が弱い子ども達で「もっともっと」の要求をどう引き出すかと悩んでいた時の子ども達のこの姿には自然の中での体験がやはり大事なんだと、強く感じました。

・また別日には、グラスボートに乗り、海の広さと深さ海の中の生き物たちに感動できる体験が出来た事はコロナ禍の中ではありましたが計画を実行出来て良かったです。



・園の行事でもある親子夏まつりは、今年も中止となり保育に中で行う事になりました。その為、年長児が相談して何日もかけてお神輿を完成させ披露する事が出来ました。また、小さなこども達が楽しく遊べるコーナーを考え準備したりもしました。(年長さんすごいと喜ばれました) みんなの為に自分達が頑張る喜びも経験する事が出来た行事となりました 暑かった夏は、連日プールで遊び、これからは秋の運動会に向けて仲間と一緒に色々な事に 取り組んで行こうとおもいます。



風の子保育園

こいのぼりづくり

7月15日に、函館から鯉を送ってもらい、鯉つかみをしました。保育園の皆が見守る中、10人の年長さん全員がつかむことができました。その後、こいのぼりづくりをしています。もう少しで完成の予定です。鯉は、その日のうちにさばき、骨ぬきなどをして、次の日給食で、から揚げにして提供されました。ふわふわとして、とても美味しかったです。



夏まつり

昨年は、コロナのためできませんでしたでしたが、今年は、8月6日午前中に、短時間でしたが、夏まつりを行いました。2才以上のお子さんが甚平をきて、職員がたたくたいこに合わせて盆おどりをし、その後、スイカ割、各クラスで、ゲームなどを楽しみました。



つくしの子保育園 函館地区

4月からの活動内容

5月からの緊急事態宣言があり計画していた行事を延期することもありましたが、子ども達の活動は縮小しながらも行ってきました。つくしの子保育園は月に1回お弁当の日を設けています。通常でしたら、お弁当を持って登山やお花見、海遠足等に出かけていましたが、今年は園に帰ってきてからお弁当を食べていました。

6月 いちご狩り



7月 海遠足



7月 流しソーメン



6月～8月 プール



7月 セタ（年長児が作りました）



7月 園内合宿（ドラム缶風呂）



青い鳥保育園

青い鳥保育園では、6月末に園庭に0～1歳児用と2歳児～年長組用プールを設置し毎日のようにプールで遊んでいます。函館の方も7月中旬から天気が良く（猛暑というべきかな？）たっぷり遊ぶことができました。年長クラスは例年この時期に「夏の合宿」を行うのですが、コロナ禍の為宿泊先の規制が厳しいので園に宿泊し園からあちこちの海や川に出かけて夏の遊びを楽しみました。例年行っている父母会との共の「夏祭り」「卒園児交流会」等も中止になりました。北海道にも緊急事態宣言が出るようなので、運動会までには解除されることを今は祈るばかりです。



札幌・小樽地区 総括会議

菊水上市保育所、風の子保育園、かもめ保育園の3園はお互いの距離は車で1時間以内の距離にあります。交流など以前は、職員リズム学習会、職員交流（他園での研修）、4歳児交流、年長合宿・交流など行ってきました。今年は、コロナの影響はとて大きく（10万人による感染者数は全国的に見てもとても高い確率となっている）交流は難しい状況もありますが、感染者数が減った中で行うなどしています（上記の通り）。

そんな中、8月26日には年長担任、園長等でZoomによる総括会議を行いました。総括資料、絵を写真に撮りメールで送り合い討論しました。「子どもたちが考えて生活する力が弱い」「頭を半分しか描かない子に対してどうかかわるか」「総括の絵、気になる絵の違いの大きさはどこから来るのか」「絵本に対する読書力の違いがあるため、わけてよんでいる」など限られた時間でしたが、考えることも多く、今後の保育に向けお互い良い刺激となりました。

函館地区

青い鳥保育園、つくしの子保育園、（近隣の保育園3園）との交流を行っています。月1回のリズム交流（2つの園に分かれて行う）、10月、2月には合同合宿などを行ってきました。ただし今年度は、6、7月のみの開催となっています（市内の感染者数が、交流前の週の一日平均が5人以下などのルールを決めています）。現在、交流は出来ませんが9月には園長が集まり会議を行う予定です。

北海道地区

北海道地区はとても広く（札幌＝函館が250キロ、東京から静岡の浜松市ほど）、札幌・小樽地区（3園）と、函館地区（2園）と2つの地区に分かれて交流や学習など行っています。今後どう交流していくかは検討事項となります。